

知床国立公園及び大雪山国立公園での自然環境保全に対応した利用面での取り組み

小林 昭裕 (専修大学北海道短期大学)



知床国立公園及び大雪山国立公園での
自然環境保全に対応した利用面での取り組み

2005-02-25 専修大学 小林昭裕 1
2006年2月25日 東川町



知床でのゾーニングと利用ルールへの取り組み
— 利用適正化の実現のために —

2005-02-25 専修大学 小林昭裕 2

現状の問題点(1)



写真-13 知波連山 フードロッカー点検
(2004年8月9日)
7月連休の二つ池野営地の状況



写真-16 二つ池野営地
跡地内にも草叢
(2004年7月17日)



2005-02-25

専修大学 小林昭裕

3

2004年12月検討会議資料 知床財団作成

現状の問題点(2)

登山道の植栽化



登山道の廃食



写真-11 ルシヤ地産立ち入り者の様子
(ヒグマがすぐ側を通過しても避けない)
(2004年9月6日)

麓日通歩道入口駐車状況



2005-02-25

専修大学 小林昭裕

4

2004年12月検討会議資料 知床財団作成

現状の問題点(3)

① 駐車問題



カムイワッカ駐車状況

② 利用状況



カムイワッカ利用状況①



2005-02-25

専修大学 小林昭裕

5

2004年12月検討会議資料 知床財団作成

問題点の確認を基点とする、利用適正化へのステップ

問題点は いわば影

影の方向は、光(望ましい)の方向を示す

問題点(影) → 問題点(光)の方向が導く

光の方向性 → 解決すべき適切な方向性を見出す必要

目標像の設定 ← 既存の公園計画、管理計画など

望ましい利用のありようを方向性として 解決方向を定める

利用のありようを規定すると同時に、解決策を具現化

2005-02-25

専修大学 小林昭裕

6

利用適正化基本計画策定(2004,2005)にあたり

2001年適正利用基本構想

望ましい保護と利用のあり方について、学識経験者、地域関係団体、関係行政機関で構成する検討会議で議論

基本思想

ヒグマに象徴される知床の自然に対する『謙虚さ』と『畏怖・畏敬の念を根底とした』ヒグマの棲家にお邪魔する』

基本思想を踏まえた前提

知床ならではの原始性の高い自然景観と豊かな野生動物によって形成される多様な生態系の持続的保全

基本方針

原始的な自然の地域において、一定のルールの下での自然体験機会の適正な提供と持続的な保全

2005-02-25

専修大学 小林昭裕

7

知床半島先端部利用適正化基本計画 平成16年12月

知床における利用ルールとは

目的

原始性の高い自然景観と多様な生態系を適正に保全するため利用の適正化のため『**あるべき姿**(基本方針及び利用形態別方針)』、『**守るべきルール**(利用の調整及び利用の心得)』、『**管理運営**』などを定めることにより立ち入り利用者が風致景観と生態系の持続的保全に支障を及ぼすことのないようにする

「**利用のルール**」とは基本計画の「**利用の調整(コントロール)**」および「**利用の心得**」をさす。

「**利用の調整(コントロール)**」: 地区毎の具体的な利用のあり方を踏まえて利用の方法に一定の制限を加えるもの

「**利用の心得**」: 「**利用の調整**」の内容を踏まえて利用者が立ち入る際に自然保護や安全の確保などの観点から留意すべき事項や禁止事項について定める

2005-02-25

専修大学 小林昭裕

8

知床半島先端部利用適正化基本計画 平成16年12月

ゾーン毎にみた問題点(潜在的状況を含む)(私案:2005.3.)

ゾーン	区域番号	手続の完成 残存化への対応	臨時植生の 保全への対応	入り込み 増加に伴う 種化植物の 侵入	既存地 理シス テムの 種別	適宜利 用意 義利用 の集中 への対応	ヒコマ生 息域に おける 安全利 用シス テムの 確立	遊歩 計画 策定 への 対応	防火 管理 策定 への 対応	管理 計画 策定 への 対応	景観 維持 策定 への 対応	自然 環境 保全 策定 への 対応	動物 の 保護 策定 への 対応	種多 多 様性 の 保全 策定 への 対応	立ち 入り 利用 者 の 誘 導 策定 への 対応	野営 地 の 誘 導 策定 への 対応	交通 事 故 の 防 止 策定 への 対応
I	1	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
I	2	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
I	3	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
I	4	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
I	5	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
II	6								〇				〇				〇
II	7						〇					〇	〇				〇
II	8								〇								〇
II	9						〇								〇		
II	10									〇							
II	11A					〇						〇					
II	11B		〇	〇		〇	〇				〇				〇		
II	12				〇	〇	〇				〇	〇			〇		
II	13					〇	〇				〇	〇	〇		〇		〇
II	14						〇				〇	〇			〇		
II	15								〇			〇	〇		〇		〇
II	16											〇					
II	17														〇		
II	18																
II	19																
III	20																
III	21																
IV	22																〇
IV	23										〇						
IV	24			〇		〇				〇			〇	上段	〇		
VII	25			〇	〇		〇			〇	〇		〇	〇	〇	〇	
VII	26			〇	〇					〇	〇		〇	〇	〇	〇	
VII	27			〇	〇					〇	〇		〇	〇	〇	〇	

2005-02-25

専修大学 小林昭裕

9

利用適正化のための大区分



2005-02-25

専修大学 小林昭裕

10

知床半島中央部利用適正化基本計画 平成17年12月

118



夏の大雪山の利用が抱える問題

・山岳自然公園を
利用する主目的
盛大な自然景観の眺め
高山植物との出会い
手つかずの自然 など

・高山植物の特性
生育期間が短い。
損傷の回復に要する期間も短い

↓

利用による被害が顕在化しやすい。

2005-02-25 専修大学 小林昭裕 12

「歩く」ための『用』と自然環境や景観との『調和や美』
 文化的に洗練された所作 としての登山道



土壌浸食
 復縁化



木道設置は万能薬？

2005-02-25

専修大学 小林昭裕

13

登山道補修の具体的対応措置については工法や素材を含めて、
 以下の3点から、科学的検証を進める必要
小林昭裕(2004):山岳地の登山道の整備に関する環境省案(2002)の問題点を
 踏まえた改善について 環境情報科学論文集 18, 21-236

A生態学的観点から見た登山道及びその脇で起きる環境変化

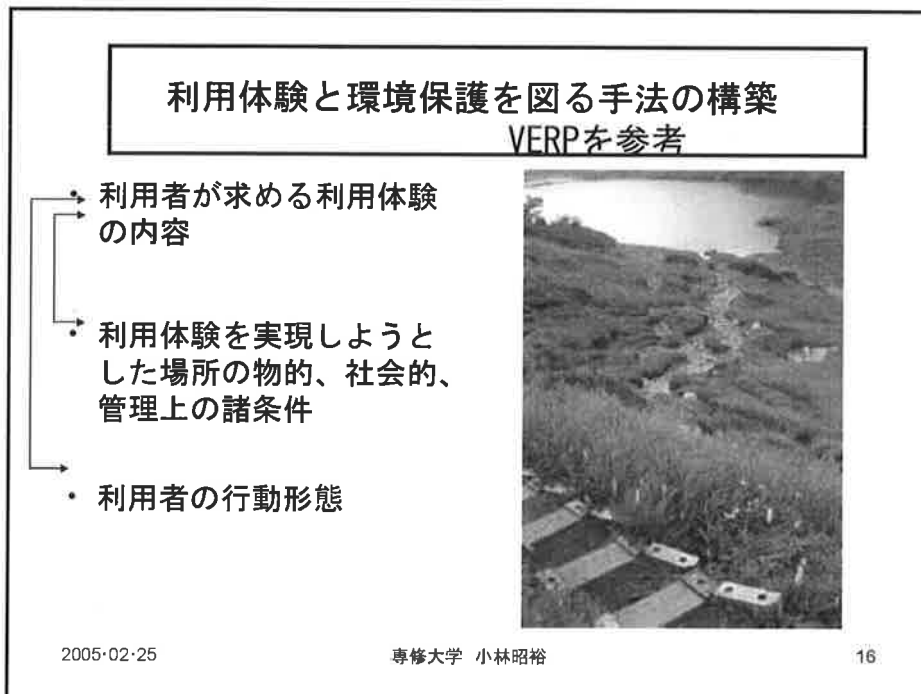
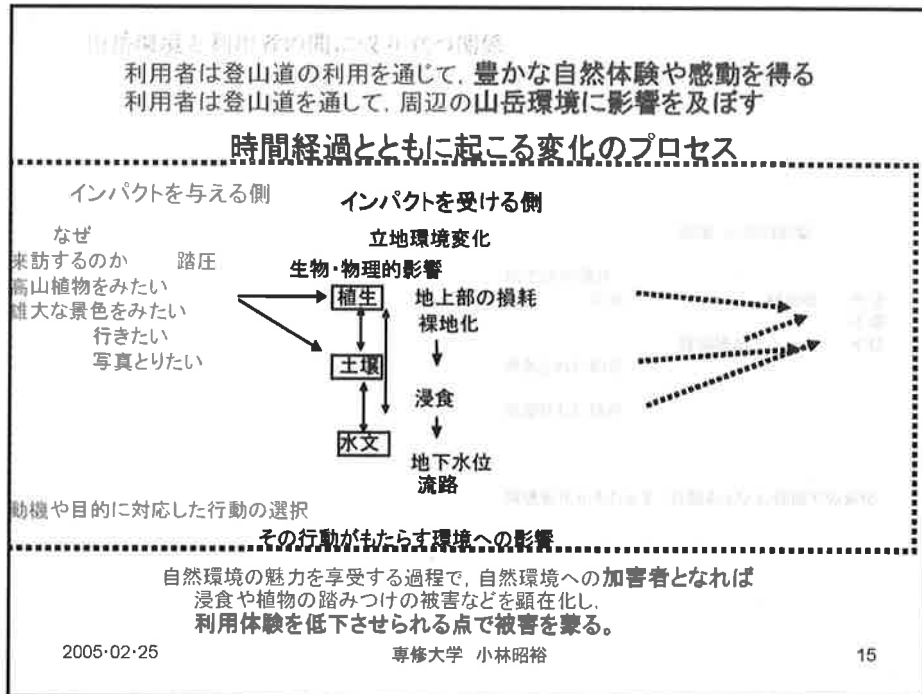
B利用者の視覚・触覚を通じた認識評価から
 素材・工法・形態・色彩などランドスケープの観点

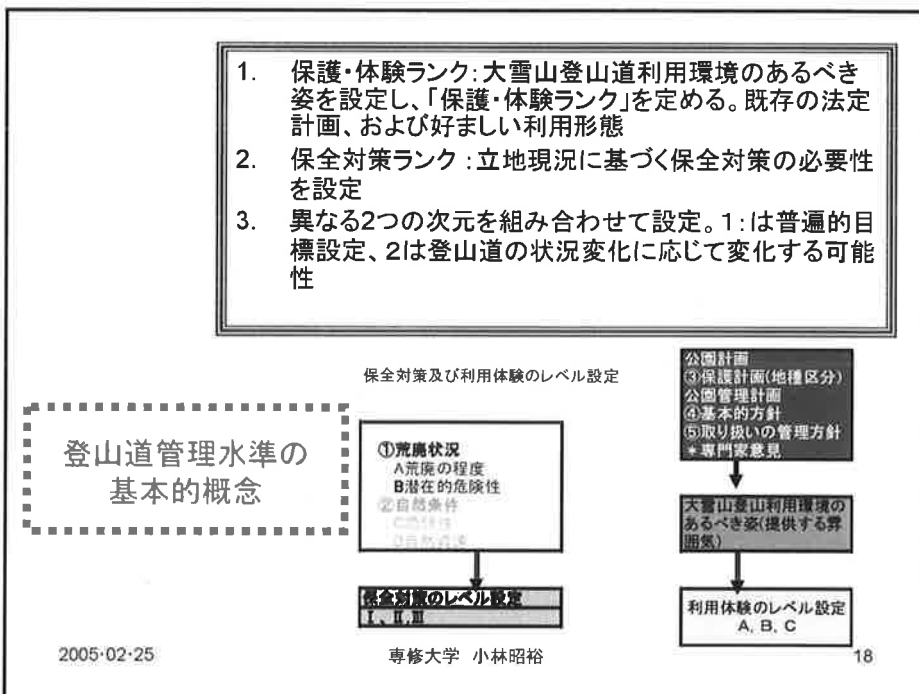
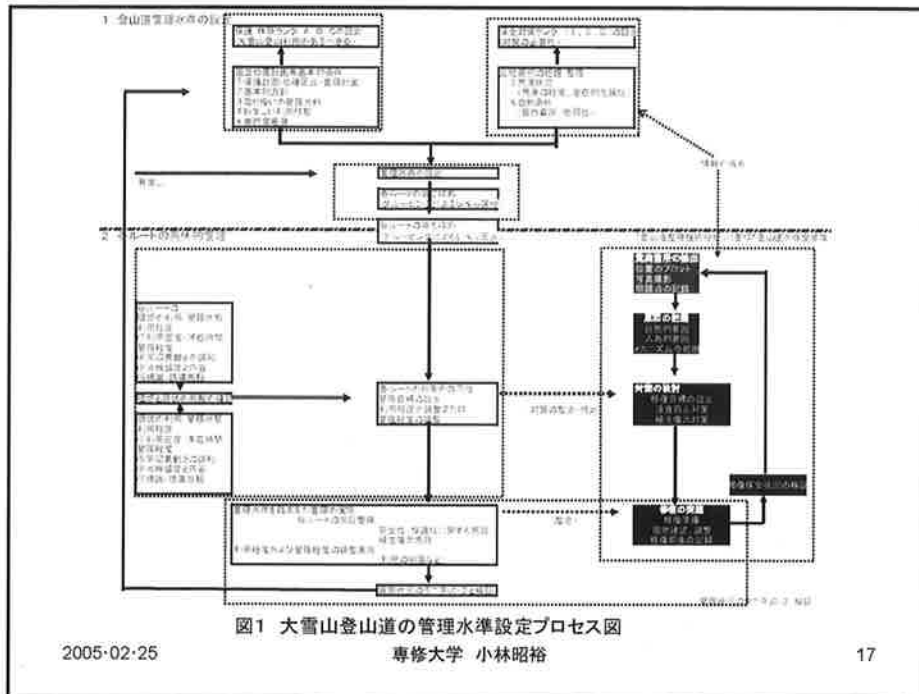
C当該環境に適応した、実施及び維持管理が可能な技術レベル

2005-02-25

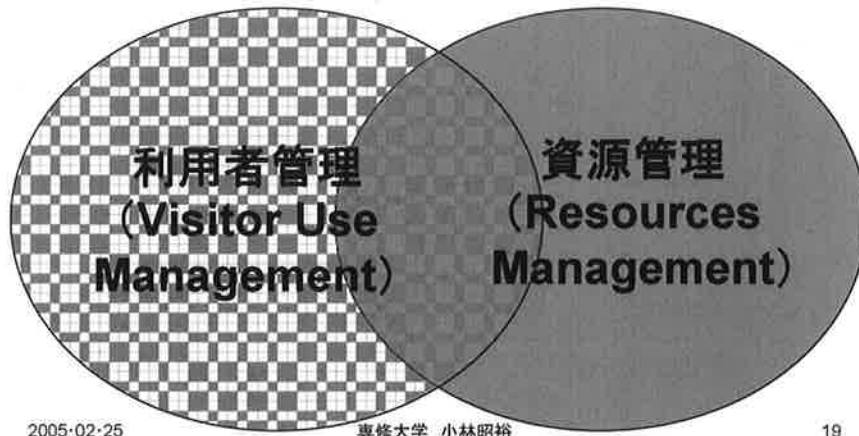
専修大学 小林昭裕

14





自然公園における2つの「管理」 —「資源管理」と「利用者管理」—



2005-02-25

専修大学 小林昭裕

19

社会は変化し、自然環境への見方、関わりも変化する。
デザイナー・管理者・市民との適切な動的関係の構築

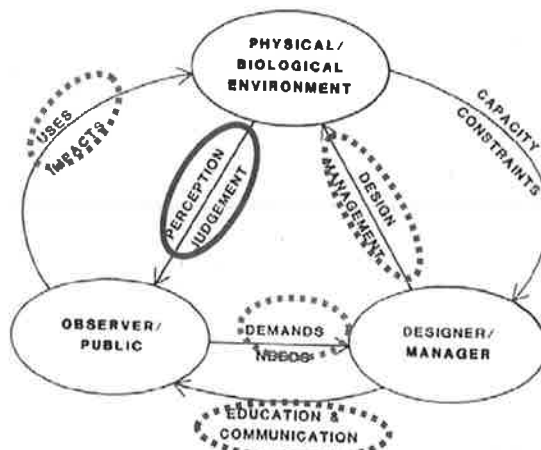


Fig. VI-2-1 Proposed model of landscape quality assessment⁵⁶⁾

2005-02-25

56) Swardon, R.C., Palmer, J.E., Pelleman, J.P. 1988. Foundation for visual project analysis. 1-374. John Wiley & Sons, Inc.

20

著者（小林昭裕氏）の御厚意により講演会 ppt より要旨抜粋して頂き転載